

大規模盛土造成地の危険性

過去の地震では、盛り土によって造成された団地などの宅地で大規模な崩壊が起こり、大きな被害が発生しました。

1. 大規模盛土造成地とは

2004年(平成16年)新潟中越地震では、昭和50年代後半に開発造成された団地で大規模崩壊が発生し、大きな被害が生じました。その後、2011年(平成23年)の東日本大震災でも、谷や沢を埋めた造成地または傾斜地に腹付けした大規模な造成地において、盛土の地下をすべり面とする地すべりのような異状が生じ、大きな被害が発生しています。

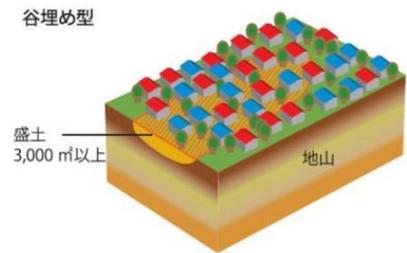
このような大規模盛土の危険性を示すため、「大規模盛土造成地」をマップに示すことが義務付けられています。

大規模盛土の定義 ※早稲田団地は①の谷埋め型

- ①【谷埋め型】盛土の面積が3,000m²以上
- ②【腹付け型】盛土の傾斜角度が20°以上かつ高さ5m以上

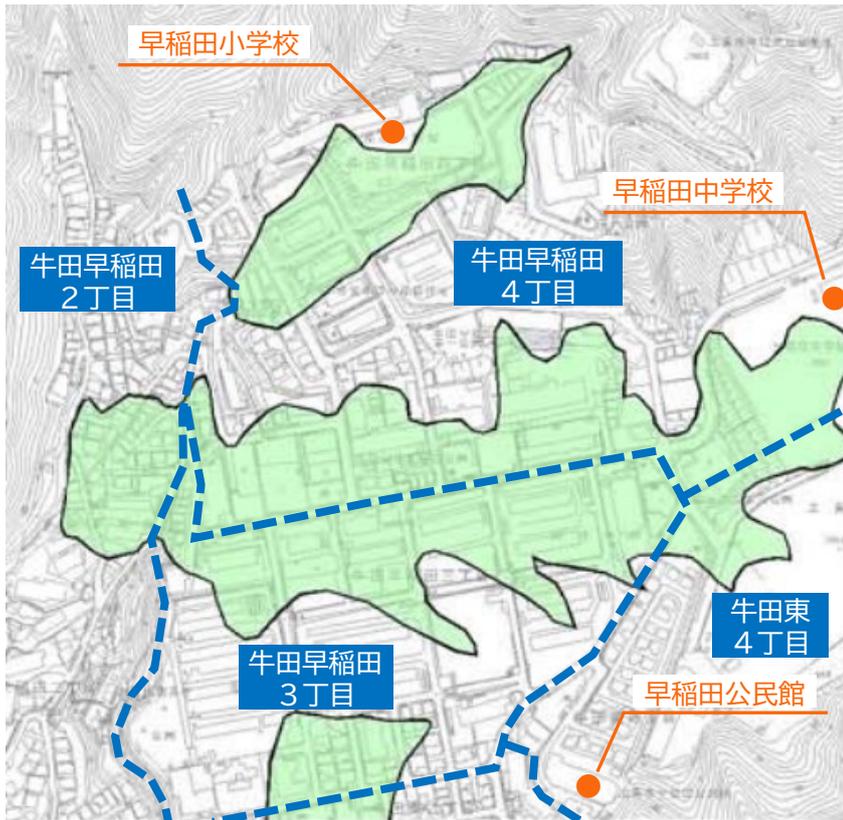


2004年新潟中越地震での造成地崩壊状況

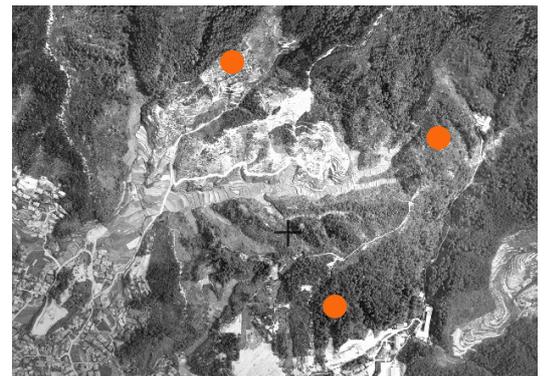


2. 早稲田学区内の大規模盛土造成地

早稲田学区内にも、かつては谷やなだらかなくぼ地だった場所が埋められて早稲田団地となった場所が大規模盛土造成地として存在しています。これらの土地がすべて危険であると決まってはいませんが、しっかりとした地盤調査や建物の基礎構造を確認しない限り、安全は保障されず備えが必要です。



広島市公表 大規模盛土造成地マップ



1961～1969年代の航空写真（地理院地図より）



2022撮影の航空写真（Googleマップより）